

環境ニュースレター 春号

Vol. 58

NOW



発行者 NPO 法人 環境21の会 理事長 松本 弘
 明石市松が丘2丁目2-6
 明舞第2センタービル2階 明舞まちづくり交流拠点内
 Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp
<http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21noka>
 発行: 年4回

特定非営利活動法人 環境21の会



COOL CHOICE クールチョイス

理事長 松本 弘

COOL CHOICE とは環境省のホームページには次のように示されている。

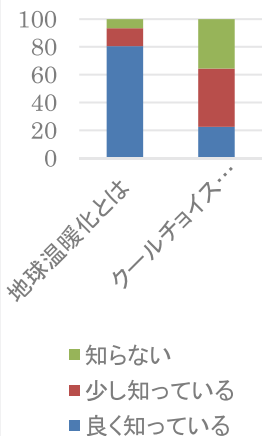
2015年に、すべての国が参加する形で、2020年以降の温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」が採択され、世界共通の目標として、世界の平均気温上昇を2℃未満にする(さらに、1.5℃に抑える努力をすること、今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることが打ち出されました。その後、2020年10月に、我が国は2050年カーボンニュートラル宣言を行い、2021年4月には、2030年度に2013年度比で46%削減を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けていくことを表明しました。「COOL CHOICE」は、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという取組です

環境省ホームページより

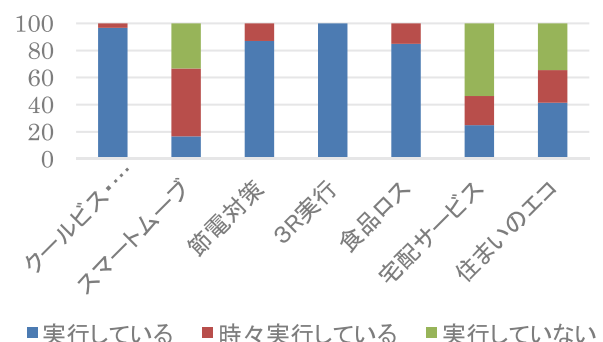
これに賛同者を募っており、現在個人賛同者数は千三百万人を超えているようだ。私の居住している自治体も賛同に名乗りを上げ、市民に COOL CHOICE の普及に努めている。しかし、市民には COOL CHOICE という言葉になじみが薄く、普及していないようである。昨年末に開催されたあるイベントで地球温暖化防止活動推進員達が市民にアンケート調査を行った結果、図のようになっている。最初に地球温暖化とクールチョイスについて知識調査を行った結果、温暖化については「知っている」が80%以上あり、「少し知っている」を含めると、93%以上であったが、クールチョイスは「知らない」が35%もあり、「よく知っている」の22%を大きくうわまわった。しかし具体的な実施調査では「クールビズ・ウォームビズ」「節電対策」「ごみの3R」「食品ロス」に関しては「実施している、時々実施している」を含めるとほぼ100%になっている。これは「クールチョイス」を知らなくても、広く知られている温暖化防止活動にかなりの人たちが取り組んでいることになる。ただし「クールチョイス」でとり上げられている、「スマートムーブ」や「宅配サービス」に関して実施している人は20%程度と低い値となっており、認知度の低い項目の認知度を上げて、普及啓発活動することが、脱炭素社会づくりに効果を上げることになる。

この調査はまだ調査件数も少なく、年齢層別もなされていないので、今後調査を進めて、具体的にきめ細かい啓発活動をおこなえば効果が上がりそうだ。

知識調査



項目別実施調査



令和3年10月～令和4年3月活動実績

西宮市宮水ジュニアは神原公民館(前期)6月～10月、高木公民館(後期)11月～3月で新型コロナウイルス対策のため、受講生を少人数とし12名で実施。

- 10月 9日 「自然エネルギー・風力発電」を学習し、ペットボトルで風車工作し発電実験。修了証記念品授与。
- 11月13日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。
- 12月11日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
- 1月15日 「ケナフの光合成とCO2削減」を学習して、ケナフ材によるストラップとケナフ韌皮でコースター工作。
- 2月 5日 「自然エネルギー・風力発電」を学習し、ペットボトルで風車工作し、発電実験。
- 2月26日 「森のはたらきと炭の効用」を学習し、七輪炭火でケナフ炭を作り、餅を焼き、ぜんざいで食した。
- 3月 5日 「太陽光と紫外線を学び、紙コップで作る分光器で虹を観測。」修了証記念品授与。



修了証書授与



ソーラーオルゴール工作



ケナフストラップ コースター工作



風力発電実験



炭火を使って餅焼きと炭焼き実験



紫外線実験

2. まちの寺子屋(明石本校)

- 10月10日 地域親子対象に「食育と環境」を学習し、塩分糖分計測実験、地産地消のキャベツ焼き作り
- 10月30日 神戸学院大学実習学生対象に「地球温暖化防止対策、省エネ」を学習し、ペットボトルで風車工作」
- 10月31日 三木市民活動センターで「地球温暖化と太陽光」を学習して、ソーラーカー・オルゴール工作」
- 2月26日 明石市東野町自治会館で「地球温暖化と太陽光」を学習して、ソーラーカー工作」



食育と環境学習



地球温暖化学習と風車工作



温暖化と太陽光学習

ソーラーカーとオルゴール工作



温暖化と太陽光学習

ソーラーカー工作

3. イベント参加出展

10月16～17日 神戸メリケンパークで開催ひょうごふれあいの祭典「ふれあいフェスティバル in 神戸」出展
兵庫県立消費生活総合センター「体験学習」 紫外線防止効果実験を実施した。

11月20～21日 三木市民活動センターで開催「三木市ボランティアフェスタ」出展、ペットボトルで風車工作体験



ふれあいの祭典 温暖化防止を啓発 ～ 体験学習 紫外線実験

ボランティアフェスタ 風車作り

4. まちの寺子屋(淡路分校)

9月12日 ケナフ畑除草、
状況調査

11月28日 ケナフ刈り取り

2月16日 ケナフ材窯入れ

3月21日 ケナフ炭焼き



折々の抄

塩野 勝

春過ぎて夏来たるらし白妙しろたえの

衣ころもほすてふ天あまの香かぐやま久山

持統 天皇

もう春が過ぎて夏が来たようだ。天の香久山では真っ白な衣を干す景色が見られると
いうが、なるほど衣替えの季節で白い衣がは
たみている。初夏の緑と衣の白が相まって
さわやかさと美しさを感じられます。

のちに女帝となる作者の持統天皇が季節
の移り変わり、時の流れと風景のコントラス
ト、そして 伝説の香具山に想いを馳せていた
のが目に浮かびます。

あわただしい現在社会に対して、古いよき
時代のどかさがうかがわれる歌ですね。

第四一代持統天皇(六四五～七〇二)は
大化の改新の年に中大兄皇子(後の天智天
皇)の第二皇女として生まれます。母は遠智
姫(おちのいらつめ)。名は鷗野讚良皇女(う
のささらのひめみこ)。十三歳の時、叔父にあ
たる大海人皇子に嫁ぎました。

皇室史上 三人目の女性天皇



豊かな美しい地球【 夢 】

理事 有村利範

昨年開催された、COP26の場に対し国連のグテーレス事務総長は「私たちの未来を守り、人類を救うことを選択してほしい」と、述べている。だが、本年2月5日テレビ放送 週刊ワールドニュースの中で「世界中が兵器開発競争」と。また、新聞によると人工知能(AI)の働きで敵を攻撃する殺傷兵器の開発が進んでいるとの記事。世界のリーダーたちは、地球温暖化に対する危機感が乏しく、内戦、国家間のいがみ合い国際情勢は緊迫。そして軍拡競争。これでは、先進国が掲げる2050年までに温室ガスの排出実質ゼロを達成できるのか不安。若者たちの未来は灰色の世界だ。2009年当時の国連事務総長は、地球温暖化に触れ危機の時代こそ「国際的な連帯」が必要と述べている。だが、いまの世界のリーダーたちに連帯は望めそうにない。そこで、世界で気候危機対策を国に呼び掛ける若者たちが連携、ワンチームとなる。その折、人類にとってとても素晴らしい夢を見る。ワンチームは今日までの世界各国の軍事費を自然豊かな地球社会の建設費に充てて取り組む。脱炭素社会の実現に超高性能パネルと蓄電池を開発し、日照1時間で世界需要1年分のエネルギーをまかなえる太陽光発電に。極限状態のなかで過酷な避難生活を強いられている難民の救済。環境破壊、汚染された地球を深緑の大地、青い大海に回復。やがて、平和な地球の森に花が咲き、蝶が舞い、水辺で小鳥たちが水浴び。サンゴの海には亀、夜空には満天の星。宇宙船 地球号は、78億人類の他、多くの生命の楽園となる。若者たちの活躍で、素晴らしい夢を見ることができた。しかし、このことは夢で終わってはならない。二酸化炭素を減らすために家庭でできることは多くある。一人一人ができることを実行することで夢を正夢に。



今後の活動スケジュール

令和4年4月～活動予定

4月 6日	水	松が丘交流ゾーン	例会・理事会
4月下旬		五色町	ケナフ種まき、植付準備
5月 4日	水	松が丘交流ゾーン	例会・理事会、令和4年度総会(令和3年度決算)
5月29日	日	洲本市五色町	ケナフ植祭(植付)
6月25日	土	高須公民館	宮水ジュニア
6月26日	日	播磨町中央公民館	いきいき体験隊

【会員随時募集中】

地球温暖化防止活動などに関心がある方、下記事務局に連絡をお願いします。

〒673-0862 明石市松が丘2丁目2-6 明舞プラザビル2階
 (明舞まちづくり交流拠点内)
 NPO法人 環境21の会事務局

電話&FAX: 078-914-5546

Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp

ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21nokai>



編集後記

本誌は年4回発行しておりましたがコロナ禍の影響で活動日数も減少し、また経済状況の悪化もあって、年2回4月、10月発行になりましたが、これからも地球温暖化防止に向けて、発信してまいりますのでよろしく願いいたします。